

## 東南アジア逐次刊行物プロジェクトの活動と成果（ ライブラリー・コーナー）

著者	石井 美千子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	213
ページ	43-43
発行年	2013-06
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00003700">http://hdl.handle.net/2344/00003700</a>

## 東南アジア逐次刊行物プロジェクトの活動と成果

石井 美千子

二〇〇四年、日本の地域研究機関の連携を目的として、「地域研究コンソーシアム」が発足した。その一部として同年十二月、「地域研究情報資源共有化研究会」が活動を開始した。この研究会の枠組を活用して、地域研究機関の図書館員を中心に定例研究会が行われるとともに、二〇〇五年九月にヨーロッパにおけるアジア関係資料機関調査、二〇〇六年一月にアメリカにおける図書館協力機関調査が実施された。

二〇〇七年度から、同研究会のうち東南アジア資料に関わるメンバーが中心となって、京都大学の田中耕司教授を代表者とする科学研究費基盤研究（Ａ）「アフロアジアの多元的情報資源の共有化を通じて地域研究の新たな展開」の一部として「東南アジア逐次刊行物プロジェクト」を開始した。メンバーは、国立国会図書館関西館アジア情報課、京都大学東南アジア研究所図書室、東京外国語大学附属図書館、大阪大学附属図書館算面分館、東京大学経済学図書館、アジア経済研究所図書館の職員によって構成された（現在、国会図書館アジア情報課はオブザーバー参加）。

最初の研究課題は「東南アジアの逐次刊行物の現状調査」であった。

まず東南アジア研究のためのコアジャーナル選定を開始し、二〇〇八年一月にはタイとインドネシアで現地図書館員や研究者からのヒアリングを実施した。コアジャーナル選定後は、国内の所蔵状況調査を行った。その成果として発行されたのが、

「東南アジア研究逐次刊行物総合目録」（二〇〇九年）である。これには東南アジア研究のコアジャーナルと、国内における所蔵機関が収録されている。この目録の内容と編纂の経緯は、高橋宗生「東南アジア研究のコア・ジャーナル」（アジ研ワールド・トレンド二〇一一年六月号）および、矢野正隆「地域研究資料の収集とコアジャーナル」（同二〇一二年三月号）で詳しく紹介している。

二〇〇九～一〇年度は、京都大学東南アジア研究所共同研究として採択され、「東南アジア逐次刊行物の共有化」と題する調査研究を行った。具体的には、「東南アジア研究逐次刊行物総合目録」のデータベース化、メンバー館における新聞・官報の所蔵調査、および東南アジア各国研究の専門家を講師とする現地出版事情に関するヒアリングを実施した。この時期の第一の成果はデータベースの完成である。完成後は、京都大学東南アジア研究所図書室のホーム

ページで利用に供している。（<http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/info/db/sealib/>）

二〇一一年～一二年度も引き続き京大東南研共同研究として「東南アジア逐次刊行物に関する情報の発信」研究会を実施した。その趣旨は、これまでの調査やヒアリングで得られた情報を、ツールとして利用できる形にまとめて提供することである。

その成果が、最近刊行された「東南アジア逐次刊行物の現在―収集・活用のためのガイドブック」（制作：好文出版 二〇一三年）である。内容は二部構成で、第一部「東南アジアの逐次刊行物」は、東南アジアのコアジャーナルと官報の目録、第二部「東南アジアにおける出版の現状」は、各国に関する専門家からのヒアリングの記録である。

第一部の目録編には東ティモール以外の東南アジア一〇カ国のコアジャーナルおよび官報の書誌情報を収録している。（ブルネイについては官報のみ）。「東南アジア研究逐次刊行物総合目録」では、東南アジア研究のコアジャーナルを欧米や日本の雑誌からも選定して収録したが、今回は東南アジア諸国発行の雑誌に限定し、新たにコアジャーナルと認められたものを追加した。

官報については従来、刊行状況や書誌情報が不明確なものが多かったが、このガイドブック作成にあたって

て可能な限り実態を調査して記載した。まだ不透明点はあるが、これを契機として情報が補足されることを期待したい。

雑誌や官報の情報は、図書館OPACや各種ウェブサイトでも得られる。しかし、個別タイトルの情報の断片を整理し、目録化する意義は失われていないというのが編纂の過程で実感したことである。

第二部のヒアリング編は、二〇〇九年から二〇一一年にかけて行われたヒアリングを書き起こしたものである。内容は各講師に委ね、統一をはかることはしていない。しかし、それぞれに現地事情に精通している専門家ならではの視点や見識から語られており、雑誌、新聞が中心ではあるが、各国特有の出版事情を理解するうえで大変参考になる。ヒアリングは東南アジア一〇カ国すべてについて実施された。東ティモールなど情報が非常に少ない国の話は貴重であろう。ただし、都合により、ブルネイについては掲載できなかった。

東南アジア逐次刊行物プロジェクトは、二〇一三～一四年度も京大東南研共同研究として継続される。次の段階として東南アジア逐次刊行物総合目録データベースのアップデートと拡充およびオンライン情報の現状調査を予定している。

（いしい みちこ／アジア経済研究所 図書館）